

農福連携等マッチング支援事業 フォローアップ状況(JA湘南管轄地域)

令和8（2026）年3月26日（木）

特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

理事長

坂田 美保子

プロジェクトマネージャー

関谷 育雄

1 これまでのマッチング状況

○農家 19件

湘南小巻ファーム・柏木農園・草川農園・(株)いかす農園・岩田農園・
関谷育雄農園・farm330・小宮農園・山田農園・大森農園・石井果樹園・
和田果樹園・桐原農園・海老澤農園・秋山雄一農園・秋山修農園・
田中農園・関谷和彦農園・風間達也農園

○福祉事業所 10件

みんなの家ココ・みんなの家ミミ・キルクももはま・スタジオクーカ
プラーナ湘南・グランス平塚・KUOKEA(クオケア)・かたつむりの家
レインツリー伊勢原・Gサポート湘南

2 マッチングの組み合わせ(1)

- 1 みんなの家ココと小巻農園 (停止) 施設外2年間 ※工賃の齟齬
- 2 みんなの家ココと柏木農園 (停止) 施設外2年間 ※柏木氏が海外研修で渡航
- 3 みんなの家ミミとfarm330 (停止) 1年間 ※作業内容の不一致
- 4 みんなの家ミミと石井果樹園 (継続) R5～ ※作業が単純でし易い
- 5 みんなの家ミミと和田果樹園 (継続) R5～ ※作業が単純でし易い
- 6 キルクももはまと岩田農園 (継続) R3～ ※やりがいがある。利用者に合わせて作業内容がある。
- 7 キルクももはまと関谷農園 (継続) R3～ ※直売に関われる。
- 8 キルクももはまと山田農園 (継続) R3～ ※やりがいがある。
- 9 キルクももはまと草川農園 (継続) R5～ ※共販出荷しなくなり事業所の直売を活用している
- 10 キルクももはまと小宮農園 (継続) 施設外R6～ ※やりがいがある。
- 11 キルクももはまとfarm330 (継続) R6～ ※やりがいがある。
- 12 キルクももはまと海老澤農園 (継続) R6～ ※直売に関われる。
- 13 キルクももはまと秋山雄一農園 (継続) R6～ ※直売に関われる。
- 14 キルクももはまと田中農園 (継続) R7～
- 15 スタジオクーカといかす農園 (継続) 施設外R4～ ※作業が単純でし易い
- 16 スタジオクーカと岩田農園 (継続) R6～ ※マルシェの仕事に関われる
- 17 スタジオクーカと関谷農園 (継続) R4～ ※マルシェの仕事に関われる。畑仕事に関われる
- 18 スタジオクーカとfarm330 (継続) R6～ ※マルシェの仕事に関われる
- 19 スタジオクーカと海老澤農園 (継続) R6～ ※マルシェの仕事に関われる
- 20 スタジオクーカと秋山雄一農園 (継続) R6～ ※マルシェの仕事に関われる

2 マッチングの組み合わせ(2)

- 21 プラーナ湘南とfarm330 (継続) R4～ ※仕事のお手伝いができる。
- 22 グランズ平塚と大森農園 (継続) 施設外R4～ ※工賃がよく、いろいろな仕事ができる。
- 23 グランズ平塚と関谷農園 (継続) 施設外R4～ ※畑で農作物を栽培できる。
- 24 KUOKEA (クオケア) と大森農園 (停止) 施設外1年間 ※スタッフ不足、事業所の体制変更
- 25 かたつむりの家と桐原農園 (継続) R5～ ※重度の利用者でも作業に関われる。作業期限が厳しくないのが助かる。
- 26 レインツリー伊勢原と大森農園 (継続) R7～ ※工賃がよく工賃がよく、いろいろな仕事ができる。
- 27 レインツリー伊勢原と関谷育雄農園 (継続) R7～ ※畑で農作物を栽培できる。
- 28 キルクももはまと田中農園 (継続) R7～ ※継続しているが、作業内容がやや複雑なのが課題である
- 29 キルクももはまと関谷和彦農園 (継続) 施設外R7～ ※まだマッチングしたばかりであるが、野菜作りや作業訓練場として使うことを楽しみにしているとのこと。
- 30 レインツリー伊勢原と風間農園(継続)R7～ ※マッチングしたばかりであるが、すでに作業手順がわかりやすいので効率よく作業ができているとのこと。
- 31 Gサポート湘南と風間農園 (継続)R7～ ※マッチングしたばかりであるので、コメントなし。

※お試しノウフクは、上記の件数+約14件

継続率 約87%

- 1 お試しノウフク(体験作業)を通してマッチングに至る確率は約69%であった。
農家と福祉事業所の距離は、長くて片道20分程度と考えている。それ以上となると、農家の輸送コストや施設外の作業時間に影響してくると考える。
- 2 マッチングの継続率は約87%であった。
その理由は、多岐にわたっており、比べることはできないが、マッチングに至る話し合いの中で、農家側は、利用者に対して無理な作業内容を求めないこと。福祉事業所側は、できる限り利用者の希望を聞いて無理な要求をしていないことがあげられる。また、お試しノウフク(体験作業)の段階でそれらが予想ができ、無理なマッチングになっていないことがあげられる。
- 3 施設外作業の利用率は約22%程度で、施設内の作業が大半を占める。
福祉事業所の現状としてスタッフ不足や利用者の希望がないなどが考えられる。
- 4 利用者さんは、事業所内で事前に希望をとっているため、作業には多くの方がまじめに取り組む。
利用者さんの適性に合った作業を福祉事業所のスタッフさんは常に考えて作業を組んでくれている。
- 5 直売やマルシェ形式の農福連携が増えてきた。
福祉事業所にとっては、直売所として事業所の新たな活用の仕方が提案できた。マルシェも福祉事業所の定期的なイベントで野菜が販売されお客様にとっても好評である。また、農家にとっては、新たな販路の開拓となり固定客もできるため数量の把握もしやすい。さらに、袋詰めなどを福祉事業所に頼めるところもあるので農家の負担も減った。